



群馬県 産業経済部

業種 地方公共団体

従業員数 約4,200人（群馬県庁 / 2025年）

URL <https://www.pref.gunma.jp/>

本社所在地 群馬県前橋市

取組の特徴

6次産業化事例の視察や森林体験等を通して新たな発想を生み出す部署横断的な「合宿型研修」の導入



実施地域 森林サービス産業推進地域「**群馬県長野原町地域**」

受入組織 **TAKIVIVA** ((有)きたもっく)

実施概要 前例踏襲や既存概念に捉われがちな組織課題を踏まえ、若手職員の自由で新鮮な発想を活かす組織風土・体制づくりに向けた「合宿型研修」を導入。森林資源を活かした6次産業化事例の視察、森林や焚き火等の体験、所属部署を越えた職員同士のワークショップ等による対話と内省を通して、新たな発想を生み出し、組織の活性化に繋げている。

導入の経緯と決め手

- ものづくり産業を柱とする群馬県においても、未来を見据え新たな産業を生み出すことは重要であるが、組織として前例踏襲や既存概念に捉われがちという課題があった。
- 県の政策として「リトリート」の推進及び認知度向上に取り組んでいる。
- 新規事業創出や部署横断的取組の促進には、若手職員の自由で新鮮な発想を活かす組織風土・体制づくりが課題となる中で、地域資源を価値化・事業化して成長を続ける(有)きたもっくの取組みから学ぶため、若手職員研修での導入を調整。

プログラムの構築とねらい・工夫

- 地域資源を6次産業化により総合化・多角化しながら価値化し、各事業を有機的に繋ぎながら事業化する(有)きたもっくの取組を聞き、現場体験から得られる学びと、ワークショップ等による対話と内省を通して、今後の施策立案への活用を目指して企画。
- 「リトリート」を自ら体験し、非日常の環境の森林や焚き火をリアルに体感して五感を開放し、内省し、既存概念に捉われない自由な発想や行動を生むプログラム。
- 部署を越えた職員同士のコミュニケーションを促進させるために宿泊型で実施。

プログラムの効果、担当者・参加者の声

【効果】 日常業務では習得できない刺激や知見により、受講した職員のマインドセットや行動変容が見られ、コミュニケーションの円滑化や組織の活性化に繋がった。会議室で考えるのとは違い、自由な着想が得られ、講師からの講評で学びや思考がより深まった。

【担当者の声】 「自然環境での非日常体験と協働作業により、役職や所属の垣根が取り払われ、心理的な安全性が高まり、自由な意見交換が促進されたと考える。また、刺激や内省により自分の役割や価値を再確認したことで、主体的な行動意欲が向上したと感じる。」

【参加者の声】 「所属の垣根を越えた協働は、通常業務では得難い経験となった。」 「個室や静かな環境での振り返りにより、自分の価値観や意思決定の軸を再確認できた。」

「森のプログラム」導入事例

①産業経済部内職員研修「群馬の未来を見つけよう」
(産業経済部各課に配属されて3年目以内の職員 / 1泊2日)



プログラム事例

◆部内職員研修「群馬の未来を見つけよう」(1泊2日)

日程	プログラム	ねらい・内容
1日目	(有)きたもっく 事業説明・施設見学	事業説明、研修施設「TAKIVIVA」、キャンプ場「スウィートグラス」、製材所「あさまのぶんぶんファクトリー・木挽ラボ」、飲食・販売施設「ルオムの森」等
	ワークショップ(@ホール) [テーマ] ①リトリート推進 ②キャンプ場の災害時利用	3班に分かれて、各テーマについて以下を実施 ①事前課題である「各テーマの現状分析」を共有 ②課題の抽出 ③課題解決に向けた施策の検討
	夕食づくり(@焚き火食房)	参加者同士で協力してカレーづくり
	夕食・懇親(@火野間)、片付け	食事をしながら焚火を囲んで交流
	対話・交流(@ホール)	チームごとに、翌日の発表の仕上げに向けて対話
	就寝(@ReGo)	個室で各自が内省
2日目	散策・フィールド体験 (@スウィートグラス)	普段と異なる心地よい環境を体験してリフレッシュしたり、キャンプ場のツリーハウス等を体験
	発表・ふりかえり(@ホール)	発表・質疑応答・きたもっくスタッフによる講評
	地元企業の視察	地域で特色のある他の企業を視察